

令和 5 年度事業計画

社会福祉法人 内潟療護園

目 次

①	本部	Page 1
②	内潟療護園	Page 2
③	第二うちがた	Page 7
④	しあわせセンターうるしかわ	Page12
⑤	ケアホームうるしかわ	Page15
⑥	ひだまり工房	Page17
⑦	きりん館	Page19
⑧	福祉ホーム	Page23
⑨	相談センター	Page24
⑩	デイサービスセンター	Page26
⑪	ホームヘルプセンター	Page28
⑫	うちがた工房	Page30
⑬	中泊町地域包括支援センター	Page32

本部 令和5年度事業計画

1.	中期経営計画の推進	中期経営計画委員会が策定した計画書を実行に移すため、委員会の活動を全面的に支援し、内潟療護園が将来あるべき姿(目標)の実現に向けて委員会と協働して計画の推進に努めていく。
2.	安定した法人経営への取り組み	昨年から続く物価上昇への対策として、費用支出(物品購入)の稟議基準を再確認若しくは必要であれば基準を見直す。また、毎月作成する月次試算表を事業所管理者と共有し、課題があれば対応を協議する。
3.	生産性向上の追求	新しい人材を確保することが難しくなっているなか、現体制で如何にして生産性を向上させていくかを業務改革、ロボット、ソフトウェア等の活用で追及していく。
4.	情報発信	新型コロナは収束となってきたが、高齢者施設等においては青森県の通知により感染症対策は継続することとなっており、コロナ以前の状態にはまだ遠く及ばない。よってホームページや広報誌、定時連絡等のツールにより、施設の様子を積極的に発信していく。 また、情報発信により、新しい人材の確保につながる取り組みを継続していく。
5.	地域貢献	新型コロナにより途絶えていた地域貢献を再開する。特に地域住民が集まる取り組みに重点を置いて進めていく。テーマは「地域との共存」

令和 5 年度 事業計画

障がい者支援施設 内潟療護園

1. 事業内容

(1) 生活介護（定員 30 名）

常に介護を必要とする人に、入浴、排せつ、食事の介護、生活等に関する相談・助言その他の必要な日常生活上の支援、創作的活動または生産活動の機会を提供する

(2) 入所支援（定員 30 名）

施設に入所する人に、夜間や休日に入浴、排せつ、食事等の介護、生活等に関する相談・助言その他の必要な日常生活上の支援を行う

(3) 短期入所（定員 8 名）

自宅で介護する人が病気などの理由により介護できない場合に、施設に短期間入所してもらい、入浴、排せつ、食事のほか必要な介護を行う

2. 事業方針

- (1) 利用者・家族・地域住民・職員等が風通しの良い関係で、笑顔で暮らせる地域社会づくりを目指す
- (2) 利用者の重度化と高齢化による医療的ケア等、多様化しているニーズに応えられるよう高い知識と技術を習得する
- (3) 利用者一人ひとりの可能性を見出し、利用者主体の原則に立ち、自己決定を尊重し、ニーズに沿った質の高いサービスの提供を目指す
- (4) 職員一人ひとりが「目標にしたい、お手本にしたい」と思われるようなロールモデルの存在であることを評価し合い、互いに能力を高めて利用者の生活の質の向上につながる生き生きとした施設・職場づくりを目指す

3. 事業計画（目標）

- (1) 多様化する介護ニーズに対応していくために、高い知識と技術の習得と職員のスキルアップを図る
- (2) 喀痰吸引等の体制整備
- (3) 施設において最期までその人らしい生活を送ることができるよう看取りケア体制を整える
- (4) 地域と連携した災害対策を推進するために、関係機関と連携を図るとともに地域住民との協力体制の構築と、地域と連携した避難体制等確立に取り組む

4. 各部署の取組み

	部署名	取組内容
1	福祉課	①重い障がいがあってもひとりの人として人権が尊重され、必要な介護を受け、快適な住環境のもとでその人らしい生活を送れるよう支援する ②サービスの質の向上のために職員体制の充実と健康管理に努め、業務の見直しと利用者のニーズに沿った個別支援サービスの提供に取り組む
2	医務	①利用者が安心して生活を送れるように医師による回診や定期的な健診を継続して実施し、体調変化の早期発見と早期対応に努める ②地部署との連携を図り必要な情報の提供・共有により、利用者一人ひとりに合わせて適切な対応を行うよう努める ③感染症に対する知識を見直し、対策について重点的に取り組む
3	機能訓練	理学療法 ：①福島理学療法士の指導・助言を受けながら、個別支援計画に基づいて、各部署と連携を図り、その人らしく生活できるよう機能訓練を提供する ②褥瘡・身体変形・拘縮予防のポジショニングの提供 ③補装具の購入・修理等の支給申請の代行 言語聴覚療法 ：①今できていることが維持できるよう個別訓練の計画と実施を行う ②歯科衛生士と情報を共有し、

		口腔内の状態を確認しながら咀嚼・嚥下機能に合わせた食事を提供する
4	給食	①季節を五感で感じられるよう旬の食材を取り入れ、行事やイベントに合わせた食事を提供する ②健康で快適に過ごしていただくために「食」を充実させ栄養バランスの取れた食事を提供する ③調理者の衛生管理、健康管理を適切に進め食中毒防止の対策を徹底する
5	営繕	①BCPの策定と利用者の安全確保を最優先として防災・減災対策に努める ②防災に対する啓発活動をして職員の意識向上を図る ③施設内外の設備・備品のトラブルに対して迅速な対応をし、利用者が安全、安心に生活できるよう環境を整える ④職場内研修で年2回の救急法を実施して緊急時に適切な応急措置やAEDが施行できるよう手順を身に付けておく

5. 各委員会の取組み

	委員会名	取組内容	開催日	参加者
1	人権擁護委員会 (虐待防止委員会)	利用者一人ひとりが幸せに生活するため必要な権利、行動を守る。権利擁護ガイドラインに基づき、月1回勉強会の開催・年2回職員チェックリスト等の実施を行う	月1回	課長、各委員
2	身体拘束廃止委員会	「身体拘束廃止に関する指針」に従い身体拘束を行わないよう月1回委員会で話し合いを行う。やむを得ず身体拘束が必要な利用者には年2回家族に対して「身体拘束に関する同意書」の書類に同意をいただく。また年2回研修会を行う	月1回	各委員
3	腰痛予防委員会 ノーリフト推進委員会	①様々な福祉機器を導入し業務効率の向上、職員の腰痛予防、利用者の安心安全を届ける ②床走行リフトの業務効率を今まで以上に向上させ、職員の腰痛予防と安全な利用者の移乗を両立させる ③福祉機器を用いてノーリフトを推進していく	奇数月	医務、福祉課主任、委員
4	おいしい食事委員会	医務・言語聴覚士・給食と連携をし、安全に食事ができるよう、食事の際の接種状況を観察して随時食事形態の見直しを行っていく。また、個々に合った食事量を提供し体重管理に努める	偶数月	医務、言語聴覚士、栄養士、調理員、委員
5	リスクマネジメント委員会	今まで発生してきたインシデント・アクシデントの集計を行い、それをもとに同じインシデント・アクシデントが起こらないよう、利用者が安心安全に生活し、職員も安全に業務を行えるように問題の解決に取り組む	月1回	医務、営繕委員
6	入浴委員会	すべての利用者が快適・安全に入浴できるよう問題点の改善に向けて話し合い取り組んでいく。また、腰痛予防委員会と連携して腰痛の予防にも取り組む	月1回	各委員
7	排泄委員会	①利用者のオムツ・パッドの使用表の見直し（利用者の状況で変更） ②利用者のオムツ・パッドの使用の見直し ③利用者の居室に芳香剤の交換（約2カ月で交換） ④利用者の排尿皮膚状況の確認	月1回	医務、各委員
8	施設サービス検討委員会	施設サービスにおける手順書や業務マニュアルの見直し改善を行う。また利用者の生活の質の向上のためにアンケートを実施し、より良いサービス提供ができるよう各委員会で話し合い改善していく	隔月	各委員
9	感染予防対策委員会	各感染症に対する知識を再確認。マニュアルの作成・見直し等を行い、感染症予防及び発生時の職員の対応について伝達していく	不定期	施設長、看護師各委員
10	安全衛生委員会	①職員健康診断の申込みの手続きを実施し、結果に基づき助言等を行う。また、健康管理に対する意識向上のための取組み、休養しやすい環境を整える ②施設内外の作業事故防止のため、随時必要な情報を共有する	毎月	産業医管理者、委員

6. 各係の取組み

	係名	取組内容
1	研修・勉強会	研修や勉強会の企画・参加を計画し、関係法令の改正内容を理解する。また、法人内の事業所と連携した研修会や外部講師を依頼するなどして新しい介護技術の習得を目指す
2	機関誌・写真	①家族の方々に施設内での行事や取り組みについての様子や情報を提供できるよう「うちがただより」を発送する

		②行事の際に撮影した写真を施設内に掲示し、希望の方にプリントして配布する
3	地域貢献・福祉教育	湧きつぼ清掃：地域の宝である湧きつぼを、地域の方々と協力し維持していくことで地域に貢献する つがる市ワークキャンプ：中高校生に施設の利用者との交流や福祉の仕事体験を通じて、障がいや福祉の仕事への理解を深めていただき人材確保につなげていく 武田小学校交流会：交流を通じて利用者の方々も生きがいをもって暮らしていることを理解し、障がいに対する理解を深めるとともに身近に感じてもらえるよう取り組む 薄市小学校行事参加：薄市小学校の行事に参加させていただくことで、以前からある地域との交流の機会を絶やさず深めていく めいせい祭への参加：母校の学園祭に参加することで、同窓生や後輩、先生方と交流し、施設では味わえない刺激を受け気分転換を図る ※新型コロナウイルスにより未だ実施のめどはたっていないが、各関係者と連携しながら実施できるよう計画していく
4	外出・帰省	買物外出：年2～3回、ジャスコ柏・五所川原エルム・金木ノア店へ外出し、利用者の気分転換や本人の希望する商品を選んで購入することを楽しんでいただく（利用者へどこに行きたいか意見を聞く） ドライブ外出：年2～3回、買物外出へ参加しない利用者を対象にドライブ外出へ行き気分転換をしていただく（利用者へどこに行きたいか意見を聞く） 正月・盆帰省：正月や盆帰省をすることで家族との団欒を楽しんでいただく
5	レクリエーション	レクリエーション：ぬり絵、トランプ・オセロ・将棋・パズル・魚釣り・ボーリング等、利用者の趣味に合わせたレクリエーションや書道クラブを行う 飾り付け：ホールや玄関に季節ごとの飾りつけをして、その季節の雰囲気を感じていただく ふれあい作品展：職員と共に作品作りをして作品展に展示する アニマルセラピー：動物と触れ合う場を提供し和んでいただく
6	個別生活支援計画	①適切なサービス提供のための個別支援計画・支援プロセスの管理を行い、利用者一人ひとりの希望に沿った生活が送れるよう、質の高いサービス提供に努める ②サービス提供者（生活支援員等）への指導、助言

7. 施設行事

月	行事名	内容等
4月	花見会	施設や芦野公園へのドライブ外出でお花見の雰囲気を味わう。また、外での食事やカラオケ、その他催し物を楽しむ
5月	薄市小学校運動会見学	子供たちの一生懸命な姿を見て応援し、一緒に楽しむ
7月	夏祭り	施設の駐車場で祭りを開催。本年度も利用者にとくさん楽しんでもらえる演出で実施する
	七夕	短冊に願い事を書き、七夕飾りにつけて行事食を楽しむ
8月	つがる市ワークキャンプ	車イス、リフター、機械浴の体験。レクリエーションを通じてコミュニケーションを図る
9月	武田小学校交流学習	車イス掃除・乗車体験と一緒に作品作りを行い、コミュニケーションの機会を体験する
10月	武田小学校交流学習	同上
11月	薄市小学校学習発表会	一生懸命練習した子供たちの歌やダンスを見学して楽しむ。
	ハロウィン会	ホールや玄関にハロウィンの飾りつけをして、仮装した写真撮影を行い、おやつを食べ楽しむ
12月	クリスマス会	クリスマスらしく、サンタやトナカイ等のイルミネーションを施設の前庭に飾り、施設のホールもクリスマスツリーや雪だるま、トナカイの飾りつけでクリスマスの雰囲気を演出する。食事もちキン・グラタン・ピザ等のクリスマス食、その他カラオケや利用者の方々による音楽合奏。プレゼントはサンタから直接受け取り楽しんでいただく
1月	薄市小学校もちつき会	子供たちと一緒にもちつきを楽しみ、つきたてのおいしいお餅と一緒に食べる
2月	出張販売	冬期間、買い物外出ができないため、地元の商店に來園していただき、品物を選んで買い物を楽しむ コロナ禍に伴い商店の方が施設に來園することが難しくなっている。その際は利用者が楽しみにしているバレンタインデー・ホワイトデーに合わせて利用者に聞き取りし、チョコやクッキー、食べたい物を注文する。チョコやクッキーは渡したい職員・利用者のところへ本人と届け、少しでも気分を味わっていただく
	節分・豆まき会	年男・年女の利用者・職員がホールで豆まきを行い、厄払いと健康を願う。おやつとしてお菓子をいただく
3月	ひな祭り	ひな人形を飾り、写真撮影やおやつを食べながらお祝いをする

毎月	利用者懇談会	利用者を主体（司会進行等）とし、施設からの情報提供や利用者からの要望や意見を聞き対応を検討する
隔月	書道クラブ	季節に合った文字を選び、思いや表現を書いていただく

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ボランティア受け入れや地域活動への自粛が続くことを予測し、従来とは違う形で地域貢献活動を実施し、地域やボランティアとの絆をより深めることを目的に活動する。各小学校、つがる市ワークキャンプ参加校へ絵葉書や写真、手紙等を作成し感謝の気持ちやお互いのエール、再会を楽しみにしていることを伝える。

8. 職員会議

	会議名	内容等	開催日	参加者
1	職員会議	施設長及び各部署並びに各委員会・係からの連絡、研修内容の伝達、関係事項の周知、各種事案の検討等	月1回	全職員
2	給食会議	献立、検食簿に関する意見交換。食事形態、栄養管理の検討と見直し。行事予定の報告等	月1回	施設長、各職種担当
3	福祉課ミーティング	利用者の支援内容や業務の問題点を見直し、改善策を話し合いサービスの向上に努める	月1回	福祉課
4	支援検討会議	個別生活支援検討書をもとに関係者等で情報を共有し、課題を整理しながら具体的な支援方針を確立する	前期・後期 年2回	利用者本人 各職種等
5	リハビリテーション実施計画会議	リハビリ加算対象者の計画内容を共有し、解決すべき課題を検討しながら身体機能または生活能力の維持・向上に努める	3ヵ月毎	各職種等

9. 外部研修（前年度研修を参考にしています。）

月	研修名	内容	開催地
5月	障害児・者福祉施設新任職員研修	障害児・者福祉施設新任職員を対象に、業務上必要な知識の習得及び社会福祉施設職員としての自覚と意識の確立を目指す	青森市
	介護基礎研修（10のテーマ）	さまざまな介護の技術と知識を習得し、介護サービス全体の質の向上を図る（全5回）	青森市
7月	一人ひとりが取り組む感染症対策	感染に関する基礎的な知識と感染防止対策について学び、現行の確認、見直しにつなげる	青森市
	介護スキルアップ研修（ターミナルケア）	より生活に密着した介護を求め、選ばない、断らない、支えきる、私たちのケアについて学ぶ	青森市
	キャリアパス対応生涯研修過程 初任者コース	福祉・介護職員が、自らのキャリアアップの道筋を描き、それぞれのキャリアパスの段階に応じて共通に求められる能力を段階的・体系的に習得する	青森市
8月	強度行動障害支援者養成研修	入所・通所・居宅・相談等、強度行動障害者の障害福祉サービスに携わるあらゆる職員を対象に、今後従事者として身に着けるべく基礎的知識と初歩的な支援計画の立案方法を学ぶ	青森市
	福祉事業者のための働き方改革研修会	働き方改革関連法を含めた労働法の理解と対応方法を学ぶ	青森市
	緊急時の介護	安心して暮らせる生活空間を提供できるよう、緊急時の対応方法を学習する	青森市
9月	介護スキルアップ研修	持ち上げない・引きずらない、起居移乗の助動動作を学ぶ	青森市
	栄養・食育マネジメントセミナー	食にかかわる様々な課題を認識し、栄養バランスや食の安全が確保されるよう知識を深める	青森市
10月	障害児・者支援セミナー	障害児・者に関する支援の在り方を考える	青森市
	事務担当者研修	障害者支援施設事務担当者共通の課題について実践報告と検討	弘前市
	カウンセリング研修（初級）	職場で使えるカウンセリングの基礎または応用を演習を交えて学ぶ	青森市
	コーチング特別講座	コーチングの知識と技術を学ぶ	青森市
	季節性ウイルス感染症に備える	季節性ウイルス感染症を疑うアセスメントの視点を学び、感染拡大防止に活かす	青森市
	認知症タイプ別ケア研修会	認知症の分類とそれらの特徴を理解し、認知症の人に寄り添うケアができることを目指す	青森市
11月	障害者虐待防止権利擁護研修会	虐待防止の取り組みと、万が一虐待が発生した場合の適切な対応方法を修得し、虐待防止体制の見直しや指導に生かし、障がい者の権利擁護の推進を図る	青森市
	認知症介護研修会	認知症について知識と技術を学ぶ	青森市
	キャリアアップ講習・能力開発啓発セミナー	人材育成の必要性、スタッフのモチベーションの維持のため、リーダーはどうあるべきかを学ぶ	青森市
	褥瘡予防のためのスキンケア	褥瘡ケアにおける予防の重要性を理解し、ケアの実践を学ぶ	青森市

	介護技術レベルアップセミナー	介護専門職員として必要な技術の習得を目指す	青森市
12月	リスクマネジメント研修会	リスクマネジメントに関する視野を広げ、日常のリスクについてあらゆる角度から多面的に考えられるよう、外部の視点を学ぶ	青森市
	介護スキルアップ研修（認知症ケア）	認知症の人の想いや具体的ケアを学ぶ	青森市

10. 内部研修

月	研修名	内容	講師
4月	令和5年度研修アンケート	研修計画のためのアンケート実施	
	新入職者研修	新年度入職者に対する研修	各担当者
5月	身体拘束について	不適切なケア、当施設での身体拘束該当者について	身体拘束委員会
6月	排泄介助について	おむつの当て方	排泄委員会
7月	救急法	AEDを用いた心肺蘇生法	営繕職員
8月	防犯研修	不審者への対策	中里駐在所署員（予定）
9月	認知症ケアについて	高齢者等の虐待について	未定
10月	虐待防止について	虐待について	人権擁護委員会
11月	感染予防について	ガウンテクニック	感染予防委員会
12月	食事介助について	咀嚼・嚥下・トロミについて	言語聴覚士
1月	救急法	AEDを用いた心肺蘇生法	営繕職員
2月	身体拘束について	不適切ケア・当施設での身体拘束該当者について	身体拘束委員会
3月	まとめ		

※ 虐待・身体拘束・感染症防止・防犯研修は毎年実施する

※ 身体拘束については年2回確実に行う。1回目は新年度3か月以内に必ず行う

※ 認知症ケアについての実施月は未定。他の実施月に変動あり

令和 5 年度 事業計画

障がい者支援施設 第二うちがた

1. 事業内容

(1) 生活介護（定員 30 名）

常に介護を必要とする人に、日中、入浴、排せつ、食事の介護、生活等に関する相談・助言、その他の必要な日常生活上の支援、創作活動の機会を提供する。

(2) 入所支援（定員 30 名）

施設に入所する人に、入浴、排せつ、食事等の介護、生活等に関する相談・助言、その他の必要な日常生活上の支援を行う。

(3) 短期入所（定員 7 名）

自宅で介護する人が病気や冠婚葬祭などの理由により介護できない場合に、施設に短期入所してもらい、入浴、排せつ、食事のほか必要な介護を行う。

新型コロナウイルスが収束するまでは、発生状況を考慮しながら、利用者、家族の感染予防策へのご協力をもとにサービス提供を継続していく。

2. 事業方針

- (1) 利用者、家族、地域住民、職員等が風通しのいい関係で、笑顔で過ごせる地域社会づくりを目指す
- (2) 利用者の重度化、高齢化や医療的ケアを必要とする重症心身障害児者の多様化しているニーズに応えられるよう高い知識と技術を習得する
- (3) 一人ひとりの可能性を見出し、利用者主体の原則に立ち、自己決定を尊重し、ニーズに沿った個別支援と質の高いサービスの提供を行っていく
- (4) 新型コロナウイルス感染症の予防を徹底しながら、行事や活動に取り組んでいく

3. 事業計画（目標）

- (1) 利用者の人格と人権を尊重した支援サービスを行うため、外部研修参加や虐待防止委員会を開催し、虐待等に対する意識をさらに深める取組みを強化する
- (2) 広範な地域のニーズ把握と関係機関との連携を図り、多様化している地域ニーズに対応できるように職員一人ひとりのスキルアップを図っていく
- (3) 喀痰吸引等ケア体制整備を継続的に行っていく
- (4) 移乗リフト、移乗シート、ロボットスーツを活用し、安心・安全・安楽な支援を継続的に実践する。また腰痛予防対策を図っていく
- (5) 新型コロナウイルス感染症対策（ワクチン接種等）を講じ、利用者・職員が安心して過ごせる環境を整え、活動の場を増やしていく
- (6) 自然災害の発生時、また感染症の流行時にも、利用者と職員の身体と生命の安全を確保しながら、利用者の生活を守るために事業を継続しなければならない。そのための事業継続計画（BCP）を見直し、職員に対して研修と訓練を行う
- (7) 生活介護事業所（通所）を、利用者のニーズに沿ってコロナ禍でも安心して継続的に利用できるように環境を整備していく。（将来的に単独事業としての可能性を検討していく）

4. 各部署の取組み

	部署名	取組内容
1	福祉課	①障がいの重度化や高齢化等多様化するニーズに応え、その人らしい生活が送れるよう支援する ②利用者一人ひとりのニーズに沿った個別支援計画実現に向け、人権意識や支援技術等サービスの統一を図り、丁寧なサービス提供に取り組む
2	医務	①利用者が安心して生活を送れるように情報共有し、感染予防に努め、職員・利用者の健康管理として初期症状の確認、異常の早期発見に努める ②感染予防に対して高い意識をもって安全に対応できるよう指導、実践に努める
3	機能訓練	理学療法 ：上田法の継続と理学療法士の適時の指導を基調とし、一人ひとりに沿った手法で機能維持・向上に努める 言語聴覚療法 ：残存機能を活かした訓練の計画と実施を行う。一人ひとりに合わせたとろみ剤の濃度を適宜見直し、他職種と連携を図り調整を行う
4	給食	①毎日の食事をおいしく食べていただけるように、季節のメニューや行事食を取り入れていく ②利用者が食べやすい軟菜食を提供しているが、他の部署と連携しながら利用者の状態に合わせた食形態を更に工夫していく
5	営繕	①利用者が快適な施設生活を送れるように館内の備品整理・修繕を行い、建物周辺の環境を整える ②利用者の送迎、外出が安全に行われるようにリフト車両の点検・整備等の管理を行う ③避難訓練を通じて防災意識を高め、地域住民を交えた総合訓練を行い、協力関係を構築する

5. 各委員会の取組み

	委員会名	取組内容	開催日	参加者
1	施設サービス改善委員会	個別支援計画に基づき、より良いサービス提供を心がけ実施できるよう、マニュアルの周知、管理を行い、見直し改善をしていく。	年2回	各委員
2	虐待防止委員会 (権利擁護)	「虐待はしない、させない、許さない」人権意識や支援技術の向上を職員一人ひとりが努力し、安心、安全な質の高い支援を提供することを目的とする。ガイドライン、マニュアルの周知、管理、研修企画実施、その他事案の検証を行う	月1回	園長、各委員
3	食事検討委員会	食事の環境整備や事案の検討、給食会議に参加、情報共有しながらより良い食事提供を考える	月1回	各委員
4	リスクマネジメント委員会	日常生活のリスクアセスメントを行いリスク対策に努める。ヒヤリハット・アクシデントの分析、具体的な改善対策を検討する	月1回	園長 各委員
5	入浴検討委員会	①浴室環境の管理をし、問題点があればすぐ改善を行う ②個々の状態に合わせたケア会議を行う	隔月1回	各委員
6	排泄検討委員会	個々に合わせたケアの実践、検討を行い快適に過ごせるようにする	隔月1回	各委員
7	口腔ケア検討委員会	①口腔ケアに必要な物品の確認と発注を行う ②おいしく安全に食事ができるよう口腔環境を整え、個別に手順書の作成、管理と見直しを行う	適時	言語聴覚士 看護師 各委員
8	感染予防対策委員会	①職員の感染予防として意識啓発を促し、知識や予防法、ガウンテクニックなど継続して定期的に指導、実践していく。 ②利用者、職員の検温と体調管理をチェックし初期症状の確認、早期発見、早期治療に努める ③飛沫感染、接触感染に対する予防の取組を重点的に行う ④最新の情報収集に努めながら、感染予防マニュアルの見直し、研修をする ⑤家庭内感染での予防について指導する	隔月1回	園長、各委員
9	身体拘束廃止委員会	「身体拘束廃止に関する指針」に従って、安易な身体拘束を行わないことによって、利用者の人格の尊厳を守ることを目的とする。年2回研修会の実施と、新任職員には2カ月以内に研修を実施する	隔月1回	園長、各委員

10	安全衛生委員会	労働環境や業務内容などにより、健康被害や労働災害など職員の健康や安全を守るため、労使が一体となって調査審議し意見を述べていく	月1回	産業医、衛生管理者、委員長(園長)、各委員
----	---------	--	-----	-----------------------

6. 各係の取組み

	係名	取組内容
1	研修	全員のスキルアップと一人ひとりのキャリアアップを目指し、内部研修を企画し、外部研修への参加を計画する。
2	実習・福祉教育	実習 ：社会福祉士・介護福祉士等専門職としての役割や具体的な施設サービスの提供となる実践力等を習得できるよう、実習受入れ調整・学校担当者との連絡等を行う 福祉教育 ：ワークキャンプやインターンシップ等を通じ地域との交流や役割を理解・体験できるようプログラムの作成、受入れ調整等を行う
3	広報	施設内外での活動や行事の様子を個人情報に配慮しながらブログや法人ホームページに掲載することで、施設での様子について広く情報発信していく
4	行事 レクリエーション 外出	行事 ：施設行事として年間計画を立案する レクリエーション ：趣味活動等個々に合わせたレクリエーション活動のほか、書道・カラオケ・園芸・麻雀クラブ等を主としたクラブ活動、その他利用者の要望に合わせた日中活動を行い、余暇を有意義に過ごせるようにする 外出 ：外出する機会を設け、買物等楽しむ機会を増やし、より充実した生活を過ごしてもらえよう、利用者の意向にできるだけ寄り添いコロナ禍でも実施できるよう情報収集し計画する
5	補装具・福祉機器	利用者一人ひとりが安心・安全な生活が過ごせるよう装具等の申請、点検、管理を随時行う。利用者の日常生活に支障をきたすことなく職員もスムーズに支援できるよう福祉機器の点検管理を行う。また、福祉機器の利用を推進し、職員の腰痛予防対策につなげる。
6	利用者の会	利用者の自治会。喫茶「もどき」やバーベキュー等、施設行事とは違う独自の活動を展開。職員はオブザーバーとして参加

7. 施設行事

月	行事名	内容等
4月	買物外出	衣類、生活用品等を主に、自分の目で確かめ購入する
	コンビニ外出	近隣のコンビニに出かけ、主におやつ類を購入する
	花見会・花見ドライブ	桜を鑑賞し春の訪れを楽しむ。地域の桜名所をドライブし楽しむ
5月	買物外出	衣類、生活用品等を主に、自分の目で確かめ購入する
	コンビニ外出	近隣のコンビニに出かけ、主におやつ類を購入する
	町内会合同避難訓練	近隣住民の方々と一緒に訓練を行うことで、相互協力ができるよう確認、また地域全体での防災意識向上を図る
6月	コンビニ外出	近隣のコンビニに出かけ、主におやつ類を購入する
	ドライブ外出	景色や季節感を楽しむ
7月	ドライブ外出	景色や季節感を楽しむ
	七夕	短冊と七夕飾り、行事食を楽しむ
	花火大会	敷地内でできる小規模な打ち上げや仕掛け花火、手持ち花火を行い、季節感や雰囲気を楽しむ
	流しそうめん・バーベキュー	園庭にて流しそうめんやバーベキュー等、季節に応じた食事を楽しむ
8月	立佞武多運行参加、観覧	㈱富士電機津軽セミコンダクタの立佞武多運行に参加し交流を図る。身障者優先席を利用し立佞武多を観覧する
	パフォーマンス劇団「結」公演	パフォーマンス劇団「結」の公演を観覧する
	納涼祭	利用者、職員が企画準備を共に行い、催し物や食事を楽しむ
9月	防災の日	防災についてのビデオ研修と避難訓練、非常食提供にて防災意識を高める
	コンビニ外出	近隣のコンビニに出かけ、主におやつ類を購入する
	買物外出	衣類、生活用品等を主に、自分の目で確かめ購入する
	ドライブ外出	景色や季節感を楽しむ
10月	劇団スキップわくわく公演	劇団スキップわくわくの公演を鑑賞する
	コンビニ外出	近隣のコンビニに出かけ、主におやつ類を購入する

	ハロウィン	施設内にてハロウィンらしい飾りつけや仮装を行い、写真撮影等を楽しむ
	買物外出	衣類、生活用品等を自分の目で確かめ購入する
	避難訓練	避難訓練（火災）実施マニュアルの確認と実践
	ドライブ外出	景色や季節感を楽しむ
11 月	寿司の日	握り寿司を提供する
	コンビニ外出	近隣のコンビニに出かけ、主におやつを購入する
	買物外出	衣類、生活用品等を主に、自分の目で確かめ購入する
12 月	クリスマス会	クリスマスの行事食を食べながら、クリスマスらしい雰囲気を楽しむ
	もちつき	新年を迎える「鏡餅」をみんなで作り、年末の行事として楽しむ
1 月	鏡開き	鏡開き行事として、お汁粉等を提供し楽しむ
	出張販売	地域商店の協力のもと、冬期間でも自分で選んで買物する機会を設ける
2 月	節分	ホールにて、豆まきを行い禍を払う
3 月	ひな祭り	雛飾りや季節感を感じる食事提供、写真撮影を行う

※新型コロナウイルス感染症の発生状況をみながら進めていく。飲食を伴う外出制限が続いているため、月 1 回出前の日を設けて外出気分を味わってもらう

8. 職員会議

	会議名	内容等	開催日	参加者
1	職員会議	園長及び各事業所・各部署並びに各係からの連絡。研修内容の伝達。関係事項の周知。各種事案の検討等	月 1 回	全職員
2	給食会議	献立内容の確認・検討。各種事案の検討、研修等	月 1 回	園長、給食職員、食事検討委員会
3	給食ミーティング	給食簿記載内容の確認・検証・検討等	月 1 回	栄養士・調理員
4	福祉課ミーティング	支援内容の統一を図るため、支援内容の手順確認、各種事案の検討	月 1 回	福祉課職員
5	医務ミーティング	看護ケア、処置の統一を図るため、目的、手順の確認と伝達	月 1 回	全看護師
6	リーダー会議	状況確認等情報を共有し、課題解決や意識統一を図る	月 1 回	課長、主任 リーダー
7	エルダー会議	新任職員とエルダー職員の育成プログラムの状況確認、情報等を共有し課題解決や支援手順、業務手順の統一を図る	月 1 回	課長、主任、リーダー、エルダー
8	支援会議 ケア会議	サービス支援計画検討 ケア実施内容検討	月 2 回 週 1 回	園長、課長、サビ管、主任、栄養士、看護師、ケース担当者
9	リハビリテーション 実施計画会議	リハビリテーション加算の対象者の計画検討	3 カ月毎	園長、課長、サビ管、訓練担当者、栄養士
10	安全衛生委員会	従業員の健康障害を防いだり、健康を増進したりするための対策について話し合う。労働災害発生報告などを行う	月 1 回	産業医、衛生管理者、委員長、各委員
11	各種委員会会議	状況確認等情報を共有し、各種事案の検討、課題解決を図る	月 1 回	各委員

9. 外部研修

月	研修名	内容	開催地
4 月	感染症予防対策	感染症についての知識、予防に関する情報収集等適切な感染症予防対策について学ぶ	未定
5 月	障害児・者福祉施設新任者研修	介護現場における知識や技術などを習得	青森市
6 月	青森県身体障害者施設職員合同研修会	毎年の研究テーマに沿った発表・検討会。各施設との情報交換	青森市
7 月	キャリアパス対応生涯研修課程 初任者コース	福祉・介護職員が、自らのキャリアアップの道筋を描き、それぞれのキャリアパスの段階に応じて共通に求められる能力を段階的・体系的に習得する	青森市
	栄養・食育ケアマネジメントセミナー	栄養・食育ケアマネジメントに関する基礎知識。各種加算に関する取組等の習得	青森市
	喀痰吸引研修	必要な医療的ケアをより安全に提供するため、適切に痰の吸引等を行うことができる介護職員を養成する	青森市

	介護記録研修会	介護現場で大切と言われる介護記録の適切な書き方及び活用法について習得する	青森市
8月	職場研修担当者研修	人材の育成や定着に向け、OJTをはじめとする職場研修の実施方法について学ぶ	青森市
	社会福祉施設中堅・指導的職員研修	介護全般に関してさらに知識や理解を深め、後輩の育成や仕事における課題発掘・解決・業務改善のための視点や取り組み方など、中堅スタッフとしての役割意識を習得する	青森市
	緊急時の介護	安心して暮らせる生活空間を提供できるよう、緊急時の対応方法を学ぶ	青森市
9月	社会福祉施設看護職員研修	看護師のキャリアアップの意義と実現するための方法を学ぶ	青森市
	東北ブロック身体障害者施設職員研修会	毎年の研究テーマに沿った発表・検討会。東北ブロック施設との情報交換	山形県
10月	ノーリフティング研修	「持ち上げない・抱え上げない・引きずらない」リフトなどの福祉機器を適切に使うノーリフティングケアを習得する	未定
	全国身体障害者施設協議会職員研究大会	毎年の研究テーマに沿った発表・検討会。制度・情勢の情報収集等	群馬県
	サービス管理責任者研修（更新研修）	適切なサービス提供のための個別支援計画作成・サービス提供プロセスの管理などを学び、取得した任用資格の更新をする	青森市
	事務担当者研修	障害者支援施設事務担当者共通の課題について実践報告と検討：担当施設	五所川原市
11月	障害者虐待防止権利擁護研修会	障害者の人権・権利の擁護推進のために、施設職員としての役割や対応方法についての理解を深める	青森市
12月	キャリアパス対応生涯研修（管理職員コース）	トップマネジメントとしての役割を遂行するための基本を習得する	青森市
	リスクマネジメント研修会	リスクマネジメントにおける役割や能力、必要性や目的・効果等リスク管理について学ぶ	青森市
1月	キャリアパス対応生涯研修（リーダー職員コース）	チームリーダーとしてのリーダーシップの醸成、自己成長と業務課題の解決と実践、サービスの質の向上とリスクマネジメント等について習得する	青森市
2月	権利擁護・成年後見セミナー	「権利擁護の仕組み」「成年後見制度」の考え方や基礎的な知識・方法について学ぶ	青森市
3月	全身協経営セミナー	法改正フォローや動向の情報共有等、経営戦略的思考を学ぶ	東京都

10. 内部研修

月	研修名	内容	講師
4月	新任者研修	法人が実施する事業内容や取り組み姿勢及び各種規程の理解。また基本的な介護技術の習得ほか	各担当者
	身体拘束	身体拘束と対応について	福祉課職員
	虐待防止	障害者虐待防止法の理解と対応の手引きについて	福祉課職員
5月	救急法	救命・AEDの実技講習	営繕職員
	健康管理、ストレス管理・解消法	健康管理と心身の健康について学び考える	看護師
6月	熱中症と脱水症予防	熱中症と脱水について学ぶ	看護師
	拘縮予防ケア	「関節の動かし方」を学び、痛みを与えない介護を考える	機能訓練担当者
7月	口腔ケアについて	口腔ケアの必要性と誤嚥性肺炎の予防について学ぶ	言語聴覚士
	適切な排泄ケア	排泄ケアについて（おむつの当て方・スキンケア）	針子孝彰アドバイザー
8月	福祉機器活用について	ノーリフティングの理解、福祉機器の活用と実践	福祉課職員
9月	腰痛予防と筋トレについて	腰痛のメカニズム理解と簡単に実践できる筋トレ	福祉課職員
	虐待防止	障害者虐待防止法の理解と対応について	福祉課職員
10月	防犯研修	施設の防犯対策（マニュアル理解）・実践訓練	福祉課
	身体拘束	身体拘束の防止と対応について学ぶ	福祉課職員
	感染症対策	感染症の予防・対策について学ぶ（マニュアル確認・実技指導）	看護師
11月	適切な食事支援	食事に伴う一連の支援技術について学ぶ	福祉課職員
12月	ケアガイドラインについて	ガイドラインの活用・不適切ケアについて話し合う	福祉課職員
2月	リスクマネジメントについて	介護事故予防のためのリスクマネジメントについて学び考える	福祉課職員
3月	生活リハについて	身体可動域等身体の動きの理解と日常生活動作とリハビリについて理解する	機能訓練担当者

※仕事への意欲、自己啓発を目的として毎月「お披露目会」「接遇研修」を実施

令和 5 年度 事業計画

しあわせセンターうるしかわ

福祉総合相談センター

1. 事業内容

福祉総合相談：電話相談、来所相談、訪問相談

2. 事業方針

- (1) 社会福祉法人内湯療護園の理念「一人ひとりが人として豊かに」のもと、人との「つながり」を大切にしながら、地域に身近な「福祉よろず相談所」として寄り添った支援を行う
- (2) 住み慣れた地域で安心して暮らしていくことができるよう、関係機関等と連携し、「地域づくり」を目指していく

3. 事業計画（目標）

- (1) 周辺地域で抱えている福祉ニーズを把握し、地域資源の改善や関係機関への橋渡しなど、相談センターの機能を活かして地域への働きかけを行う
- (2) ホームページ等を活用し、相談センターの機能や活動など、地域に向けて周知を行う
- (3) 災害時における避難所（福祉避難所）等の情報を収集し、地域に発信する

相談支援事業（指定特定相談支援事業・指定一般相談支援事業・指定障害児相談支援事業）

1. 事業内容

(1) 指定特定相談支援事業

計画相談支援（サービス利用支援、継続サービス利用支援）、基本相談支援（障がい者・障がい児等からの相談）

(2) 指定一般相談支援事業

地域相談支援（地域移行支援、地域定着支援）、基本相談支援（障がい者・障がい児等からの相談）

(3) 指定障害児相談支援事業

障害児相談支援（障害児支援利用援助、継続障害児支援利用援助）

(4) その他

障害者相談支援事業（地域生活支援事業）の受託（五所川原市、つがる市、中泊町）

障害支援区分認定調査の受託（五所川原市、つがる市）

2. 事業方針

- (1) 一人ひとりが持っている能力や適性に応じ、その人らしく自立した日常生活または社会生活を営むことができるよう、想いに寄り添いながら相談受付や情報提供等の支援を行う
- (2) 「障害福祉サービス等の提供に係る意思決定支援ガイドライン」に基づき、自己決定、自己選択を尊重しながら適切なサービスを利用し、希望する生活の実現に向けた相談支援を提供できるよう努める
- (3) 相談支援専門員の手厚い配置により、質の高い相談支援を実施する

3. 事業計画（目標）

- (1) 専門性を活かし、個々の利用者に寄り添い、自己決定を尊重した計画作成に努める
- (2) 市町村及び地域自立支援協議会相談支援部会等と連携を図り、地域の福祉ニーズや地域課題を整理し、地域資源の改善、開発等に向けた働きかけを行う
- (3) 医療的ケア児等コーディネーター及び精神障害者関係従事者養成研修の修了者、主任相談支援専門員を配置している事業所として、専門性の高い支援に努める
- (4) ICT を活用した体制（タブレットの導入、オンライン研修、Zoom 活用等）を整備し、質の向上を図る
- (5) 主任相談支援専門員を中心に人材育成や地域づくり等につなぐ、地域の相談支援体制の充実を図る
- (6) 新型コロナウイルス感染症の動向に応じた感染対策マニュアル（厚生労働省）等に基づいて、対策の徹底を図り、相談業務を実施する
- (7) 要援護者名簿の作成及び名簿を活用した訓練を実施することで、災害時に対応できる体制を整える

4. 職員会議

	会議名	内容等	開催日	参加者
1	職員会議	施設長及び各部署からの連絡。関係事項の周知等 ※第二うちがたで開催される会議に参加	月 1 回	全職員
2	ミーティング	モニタリング及び計画作成の確認、ケース検討、新規相談の検討等	週 1 回	全職員
外部会議への参加 ① つがる西北五広域連合地域自立支援協議会相談支援部会運営会議（不定期） ② つがる市相談会議（年 3 回） ③ 西北五地域における精神障害者地域生活支援広域調整会議（年数回） ④ 相談支援従事者研修ワーキング会議（年 5 回程度）				

5. 外部研修（外部勉強会を含む）

月	研修名	内容	開催地
7 月	相談支援従事者現任研修	適切な利用支援等の援助技術の習得及び困難事例に対する支援方法について助言を受け、日常の相談支援業務の検証を行うことにより資質の向上を図る	青森市
10 月	福祉職員キャリアパス対応生涯研修	自らのキャリアアップの道筋を描き、求められる能力の向上を段階的・体系的に習得	青森市
未定	つがる西北五広域連合地域自立支援協議会相談支援部会	地域の相談支援に関する情報共有、事例検討など（年 3 回）	五所川原市
未定	相談支援従事者専門コース別研修	相談支援専門員の専門知識の習得及び資質向上を図る	青森市

6. 内部研修 ※このほか、第二うちがたで開催される職場内研修に参加

月	研修名	内容	講師
4 月	意思決定支援について	意思決定に向けた支援プロセスを知る	主任
未定	障害特性について	各障害の特性について学ぶ（オンライン）	外部講師
随時	伝達研修	外部研修及び勉強会の伝達を行う	相談員
随時	事例検討会	支援の見直し、地域課題の発見等を行う	相談員

地域交流室『うるしかわ「みんなのひろば」』

1. 事業内容

地域貢献：地域交流室『うるしかわ「みんなのひろば」』の貸出し

2. 事業方針

地域の「みんなのひろば」として、福祉の担い手になる「みんな」が気楽に、そして幅広く利用できる交流室を目指している。地域に開放することで、福祉を地域の人々に見えるようにし、垣根を越えた人と人との「きずな」をつくり、問題解決への働きかけをしていく役割も担っていく。

3. 事業計画

- (1) ホームページや町内会の回覧板等を活用し、地域への周知に努める
- (2) 福祉避難所として、機能及び設備等を提供する（五所川原市より指定を受けている）
- (3) 会場の換気や消毒等の物品を整備し、新型コロナウイルスを中心とした感染症対策を徹底する

4. その他

利用について

開館時間：午後 4 時～午後 8 時まで（感染症対策として開館時間を短縮）

休 館 日：年末年始（12 月 31 日～翌年 1 月 3 日まで）

利用申込：申込用紙を利用希望日の 5 日前までに提出して申し込む

利 用 料：原則無料

利用対象：地域住民のニーズに幅広く応じる

（例）●介護教室、看護教室、パソコン教室など

●町内会・婦人会・子供会など

●ボランティア等による手作り教室や児童とのふれあい交流など

令和 5 年度 事業計画

ケアホームうるしかわ

1. 事業内容

共同生活援助（定員 10 名）

2. 事業方針

- (1) 障がいがあっても安心して地域生活を送ることができるよう、利用者の意向を尊重して生きがいのある生活を送れるよう支援する
- (2) 住み慣れた地域の中で、自分らしく自立した日常生活を営むことができるよう環境を整える
- (3) 地域との結びつきを大切に、第二うちがたのバックアップを受けながら、利用者の生活を支援する
- (4) 加齢等の要因で基礎疾患の悪化や障がいが重度化してきている利用者もいる中で、安心・安全で快適な生活を提供する
- (5) 感染症予防対策について利用者・職員へ周知徹底を継続し、一体となって取り組んでいく

3. 事業計画（目標）

- (1) 利用者個々に合った支援の提供や関係機関との連絡調整を実施し、安心して地域生活を送れるように努める
- (2) 入居者のバイタルチェック、服薬管理、生活習慣の見直しの助言などを主治医や看護師等と相談しながら支援していく
- (3) 入居者が、洗濯や掃除など、家事活動の主体となり参加できるように環境づくりを進める
- (4) 感染予防対策をしながら、楽しめる活動を計画・実施していく
- (5) 非常事態に備えるため、年 2 回の避難訓練、その他水害時等の必要な訓練を実施する

4. 施設行事

月	行事名	内容等
4 月	外出	花見・買物外出・ドライブ外出等、個々に楽しめる機会を設ける
	出張販売	地元の商店に来館していただき、日用品や嗜好品を自分で見て選び、買い物を楽しむ
5 月	外出	買物外出・ドライブ外出等、個々に楽しめる機会を設ける
6 月	全職員基本健診	
	外出	買物外出・ドライブ外出等、個々に楽しめる機会を設ける
7 月	避難訓練	避難誘導・通報訓練・消火訓練・放水訓練を実施
	夏祭り（合同）	第二うちがた・ひだまり工房・ケアホーム合同で夏祭りを楽しむ
8 月	立佞武多観覧	立佞武多の観覧（希望者）
	BBQ	日常と違う雰囲気での食事を楽しむ
9 月	出張販売	地元の商店に来館していただき、日用品や嗜好品を自分で見て選び、買い物を楽しむ
	買物外出	買物外出・紅葉等、個々に楽しめる機会を設ける
10 月	BBQ	日常と違う雰囲気での食事を楽しむ
	入所者懇談会	日々の生活などについて意見交換する
	避難訓練	避難誘導・通報訓練・消火訓練・放水訓練を実施
11 月	インフルエンザ予防接種	利用者・職員対象に予防接種を実施し、インフルエンザ予防に努める
12 月	クリスマス会	クリスマス料理を食べながら雰囲気を楽しむ
2 月	出張販売	冬期間は外出ができなくなるため、地元の商店に来館していただき、日用品や嗜好品を自分で見て選び買い物を楽しむ

※感染状況を見ながら実施していく

5. 職員会議

	会議名	内容等	開催日	参加者
1	職員会議	施設長及び各部署並びに各係からの連絡。研修内容の伝達。関係事項の周知。各種事案の検討等	月1回	全職員
2	ミーティング	支援内容の統一及び確認、行事、通院支援の予定等	月1回	ケアホーム職員

6. 外部研修（前年度研修を参考にしていきます。）

月	研修名	内容	開催地
6月	福祉キャリアパス対応生涯研修	福祉・介護職員が自らのキャリアアップの道筋を描き、それぞれの段階に応じて共通に求められる能力を段階的・体系的に習得する	青森市
	ノーリフティング研修	福祉機器の活用を学ぶ	青森市
9月	介護記録研修会	介護記録の大切さ・適切な書き方を習得する	青森市
12月	ウイルス感染症に備える	施設内療養の事例発表等で知見を高め、正しい知識を習得する	未定
3月	サービス管理責任者研修	適切なサービス提供のための個別支援計画書作成・サービス提供のプロセスを学び、資格を習得する	青森市

※ ほかに第二者がたに準ずる

7. 内部研修

月	研修名	内容	講師
4月	新任者研修	法人が実施する事業内容や規程等について理解を深める	各担当者
	虐待防止について	障がい者虐待の防止と対応について	第二職員
5月	救急法	AEDの実技	未定
6月	ろう者について	ろう者の方の感じ方や傾向、手話について学ぶ	手話通訳士 精神保健福祉士
7月	食中毒について	食材の取扱い方・調理時の注意点等、食中毒に関する勉強会を実施	ホーム職員
8月	危機予知訓練について	日常に潜む危険行動について	ホーム職員
9月	ガウンテクニックの復習	感染症対策の一環として復習する	ホーム職員
	虐待防止について	障がい者虐待の防止と対応について	第二職員
10月	感染症対策について	感染症の予防・対策や、嘔吐時の対応について復習する	第二医務
	伝達研修	参加した研修内容による	当該職員

※ ほかに第二者がたに準ずる

令和 5 年度 事業計画

ひだまり工房

1. 事業内容

(1) 生活介護（定員 14 名）

(2) 自立訓練（機能訓練 定員 6 名）

2. 事業方針

(1) 生活介護

常に介護が必要な方に、より健康的な日常生活を送っていただけるよう、食事や入浴、排せつなどの介護や日常生活上の支援、創作活動や生産活動の場を提供する。

(2) 自立訓練（機能訓練）

自立した日常生活や社会生活が営めるよう、身体機能の維持、向上のために必要な訓練を提供する。

3. 事業計画（目標）

- (1) 地域住民との交流の場とした生活支援を図る
- (2) 各事業所との連携を密にして利用者の確保に努める
- (3) 個別支援計画に沿ったサービス提供を行う
- (4) 利用者の自己選択、自己決定を尊重する
- (5) 必要性の高いサービスの提供を行う
- (6) 職員の学習環境を整えスキルアップを図る
- (7) ボランティアの確保に努める
- (8) 感染対策を行い、安心して利用できるように取り組む

4. 施設行事

月	行事名	内容等
7 月	合同夏祭り	地域住民・家族・他利用者と多彩なイベントを鑑賞し、食事をとりながらひと時を楽しむ
12 月	クリスマス会	手作りのツリーを飾り付けて、ケーキを食べ、歌をうたい楽しむ
2 月	節分	文化に合わせた飾り付けを行い、豆まきと年の分豆を食べて雰囲気を楽しむ
随時	買物・食事・ドライブ外出	希望に沿った買い物・ドライブの機会を設け楽しむ

5. 職員会議

	会議名	内容等	開催日	参加者
1	職員会議	施設長及び各部署並びに各係からの連絡。研修内容の伝達。関係事項の周知。各種事案の検討等	月 1 回	全職員
2	ミーティング	共通認識を持ち、求められるサービス提供に結びつける	毎日（朝・夕）	全職員

6. 外部研修（前年度研修計画を参考にしています）

月	研修名	内容	開催地
6月	認知症介護基礎研修	基礎を学び、業務につなげる	青森市
7月	一人ひとりが取り組む感染防止対策	感染症対策・管理・発生時の対応法等、押さえるべきポイントを学び、安心した業務と利用につなげる	青森市
	介護記録研修	記録の基礎を学び、実践に結びつける	青森市
8月	緊急時の介護	基礎を学び、日頃からの備えと合わせ、いざというときに役立てる	青森市
9月	苦情解決関係者等研修会	基礎的な知識・方法を学び、専門性を高める	青森市
10月	介護スキルアップ研修	基本を学び、より良いケアにつなげる	青森市

7. 内部研修

月	研修名	内容	講師
随時	第二うちがた・ケアホーム合同	職場風土の変革と人材育成の環境を整える	各担当者

令和 5 年度 事業計画

特別養護老人ホーム きりん館

1. 事業内容

(1) 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護（定員 29 名）

入所定員が 29 名以下の小規模な施設で、中泊町に住所のある要介護 3 以上の方に対して地域密着型サービス計画を作成し、計画に基づいて入浴、排せつ、食事等の介護、その他の日常生活上の世話、機能訓練、健康管理及び療養する。

(2) 短期入所生活介護・介護予防生活介護（定員 6 名）

老人ホームに併設された施設に短期間入所してもらい、食事、入浴、その他の必要な日常生活上の支援や機能訓練などを行う。一定期間、介護から解放される利用者家族にとって、自分の時間を持つことができ、介護負担の軽減を図ることができる。また、利用者家族の病気や冠婚葬祭、出張などで一時的に在宅介護が困難な時にも利用できる

2. 事業方針

- (1) 住み慣れた町で、馴染みの顔の人たちとともに、それまでの生活習慣や好みを活かして、今までの暮らしが継続できる環境を整え、ご本人や家族の入居に対する不安を解消する
- (2) 台所ではご飯を作る音や匂い、共有スペースからはテレビで楽しむ声が聞こえ、自分の部屋にいても皆の生活している気配を感じ、「ひとりではない」安心感を持っていただける空間づくりを進める。
- (3) 一人ひとりのプライバシーに配慮し、入居者が相互に社会的関係を築き、自立した生活を営むことができるよう支援する
- (4) 「ゆっくり、にっこり、おおらかに」を心がけた生活支援と介護を進める

3. 事業計画（目標）

(1) 新型コロナウイルス感染症対策を通年継続する

- ① 年間をとおして感染予防対策を行う。「持ち込まない、拡げない、持ち出さない」
- ② 新型コロナ等、感染症対策についての「高齢者介護施設における感染対策マニュアル」に沿って職員教育を強化していく
- ③ 感染予防対策を徹底しながらも、「新しい生活様式」を取り入れた日常生活を進め、利用者の安全と安心した生活を守る

(2) 業務継続計画（BCP）の作成及び訓練の実施

感染症や災害が発生した場合であっても、利用者に必要なサービスが安定的・継続的に提供される体制を構築する

- ① 「新型コロナウイルス感染症発生時における業務継続計画」「自然災害発生時における業務継続計画」の作成
- ② 「新型コロナウイルス感染症発生時における業務継続計画」「自然災害発生時における業務継続計画」をもとにシミュレーションを行い、年 1 回以上事態を想定した訓練を実施する
- (3) ノーリフティングを基本としたケアを進め、利用者が安全で安心した介護が受けられる仕組みと、職員の腰痛軽減や安全な業務の遂行を進め、長く働ける現場環境を整える
- (4) 施設内外の研修に積極的に参加して、必要な知識と技術を高め、質の高いサービスを提供する。また、研修配信ネットサービスを活用し、職員が限られた時間を有効活用し、いつでもどこでも何度でも学べる環境を整備する

4. 各部署の取組み

	部署名	取組内容
1	介護	利用者一人ひとりの意見と人格を尊重し、自立した生活を営むことができるよう 24 時間シートを作成し、サービスを提供する
2	医務	利用者が安心して生活が送れるように健康管理に努め、病気の早期発見、早期治療に努める
3	給食	② 衛生管理を徹底し、食中毒防止に努める ②調理職員全員で利用者の食事場面の観察を続け、安全でおいしい食事を提供できるよう努める ③デイサービス昼食に月 1 回選択食実施を継続する
4	営繕	①施設内外の環境整備・清潔保持に努め、利用者が安心・安全に過ごせるように、事故防止を側面から支援する ②災害時に備え訓練を実施する

5. 各委員会の取組み

	委員会名	取組内容	開催日	参加者
1	感染防止	①感染症予防に努める ②感染予防マニュアルの作成を行う ③感染症予防の研修を企画開催する（※特に新型コロナウイルス感染症について強化する）	年 3 回及び 必要時	施設長、看護師、課長、 主任、各委員
2	ノーリフティングケア委員会	①ノーリフティングケアを推進し、ケアの質を高めるとともに職員の腰痛ゼロを目指す ②研修会、研究会の実施	年 2 回	施設長、課長、主 任、各委員
3	広報誌発行委員会	①広報誌「きりんだより」の発行を行い情報発信する ②地域に広く知っていただくために PR 活動を行う	年 4 回	施設長 各委員
4	備品管理・経費節約委員会	①介護用品、日常品等の備品等の発注及び在庫管理を行う ②節約に対する意識の改革	年 2 回	施設長、課長、主 任、各委員
5	事故防止・リスクマネジメント委員会	①事故及びヒヤリハット事例の収集、分析、再発防止策を検討する ②安全対策を進め、事故ゼロを目指す	隔月 1 回 緊急時 勉強会 2 回	施設長、看護 師、課長、主 任、各委員
6	身体拘束等適正化委員会	利用者の尊厳と主体性を尊重し、拘束を安易に正当化することなく、職員一人ひとりが身体的、精神的弊害を理解し、拘束等廃止に向けた意識を持ち、身体拘束をしないケアの実施に努める。具体的な活動 ①カンファレンス等を実施し、身体拘束適正化に努める ②経過観察及び再検討会議の開催 ③防止策の検討や対策案の討議を推進	隔月 1 回 緊急時 年 2 回の 研修会	施設長、看護師、 課長、主任、ケア マネ、各委員
7	職員研修委員会 実習担当	①研修の企画・参加を計画し、関係法令の改正内容の理解や新しい介護技術の習得を目指す ②人材確保や地域貢献の取組みを学び、施設内外の環境改善を図る ③アンケートを実施し、職員のニーズに合った勉強会の企画を行う	年 2 回	施設長、課 長、各委員
8	サービス向上委員会	①各支援マニュアルの作成及び見直し ②自己評価結果の問題、課題の解決 ③給食会議への参加	3 月に 1 回	施設長、課長、主 任、看護師 各委員
9	地域貢献委員会	①施設の中だけの生活にとらわれず、地域の中の一人として学校や住民との交流を目的とする ②福祉施設として地域貢献活動を行う	毎月及び 必要時	施設長、課長、主 任、各委員

10	外出・イベント企画委員会	希望に沿った行事やイベント等を企画し、より多く参加できる機会をつくる	3月に1回	施設長、課長 各委員
11	褥瘡委員会	①対象者を統一した評価スケールをもとに予防に努める ②発生時における早期治療と苦痛の緩和、適切なケアの指導を進める ③職員教育を定期的に行い、予防に対する知識の習得と質の高いケアに取り組む	毎月及び必要時 年2回の研修会開催	施設長、看護師、主任、ケアマネ、各委員
12	終末期ケア委員会 (看取りケア)	利用者と家族に安らぎを与え、たとえ意識がなくなった状態にあったとしても、最期まで人間の尊厳を守り身体介護や声がけを行う	毎月及び必要時	施設長、課長、看護師、主任、ケアマネ、各委員
13	喀痰吸引等安全委員会	介護職員による喀痰吸引及び経管栄養に関する業務の実施に当たって、施設・事業所内に委員会を設置し、実施計画、実施状況の確認、教育、器具及び衛生の管理等を行う	毎月及び必要時	施設長、課長、看護師、主任、ケアマネ、各委員
13	安全・衛生委員会	労働安全衛生法の趣旨に沿い、事業所の安全衛生に関する基本事項を定め、労働災害の防止と快適な職場環境の整備を図り、職員の安全と健康を確保することを目的とする ※ノーリフティングケア委員会とも協働する	毎月及び必要時	産業医、施設長、衛生管理者、看護師、課長、主任、ケアマネ、委員

6. 施設行事

月	行事名	内容等
4月	桜祭り外出	芦野公園で桜を鑑賞。昼食はノアで外食する
5月	薄市小学校運動会見学	地元の薄市小学校の運動会を見学し、子供たちと一緒に競技に参加、応援をする
6月	今泉賽の河原例大祭外出	地元の今泉地区で古くから行われてきた行事に参加し、先祖供養とともに地域の方と共にステージ発表等を見学する
	買物外出	つがる市・五所川原市の大型ショッピングセンターへ小グループに分けて外出し、買物と外食を楽しむ
	薄市こども園運動会見学	地域の方々と一緒に、園児の競技やダンスを見学する
	避難訓練	消防署の協力を得て、火災を想定した避難訓練実施
7月	ドライブ外出	小泊地区出身の方を中心に、自宅に立ち寄りたり海を見たりしながらドライブする
8月	中泊まつり外出	地元の祭りに出かけ、出店での飲食やステージでの催し物を鑑賞する
	薄市地区盆踊り参加	地元薄市地区で行われる流し踊り・盆踊りに参加・見学する
9月	ケッパレ薄市秋祭り	地域の方々と一緒に食事し、ステージ発表やくじ引きなどを楽しむ
	避難訓練	消防署の協力を得て、火災を想定した避難訓練実施
	買物外出	つがる市・五所川原市の大型ショッピングセンターへ小グループに分けて外出し、買物と外食を楽しむ
10月	薄市小学校発表会見学	薄市小学校の発表会に招待していただき、児童の劇や合唱を堪能する
	薄市こども園発表会見学	こども園の大ホールを貸切りで、発表会のリハーサルをゆっくり見学し、園児と触れ合う
11月	中泊町民祭見学	利用者が余暇活動で製作した手工芸品の展示と展示品の見学をする。また、唄や踊り等のステージ発表を見学する
12月	クリスマス会	家族の参加を募り、きりん館大ホールで催し物やくじ引き大会等を楽しむ。きりん館最大のイベント
1月	薄市小学校もちつき大会	杵と臼を使った昔ながらのもちつきを行い、児童と一緒に繭玉をつくり、つきたてのもちを味わう
2月	節分	各ユニットで、鬼を決めて豆をまき、昔ながらの季節行事を楽しむ

3月	ひな祭り	各ユニットで、手作りのお雛様を飾り、桃の節句を祝う
随時	出張販売	地域のスーパーに出張してもらい、大ホールでお菓子や飲み物等を自分で選び購入する

7. 職員会議

	会議名	内容等	開催日	参加者
1	職員会議	施設長及び各部署、各係からの連絡。研修内容の伝達。関係事項の周知。各種事案の検討等	月1回	全職員
2	ユニット会議	現場の課題を抽出し、業務の改善や標準化を検討する。情報の共有を行う	月1回	施設長、課長、主任、看護師、介護職員
3	給食会議	職員・利用者からの意見を取り入れ、献立内容を検討する	隔月	施設長、課長、栄養士、調理員、看護師、介護職員
4	運営推進会議	運営状況、活動状況等を報告し、適切な施設運営につなげていく	隔月	運営推進委員、行政・包括職員、利用者、各職員

8. 外部研修（前年度研修を参考にしています。）

月	研修名	内容	開催地
4月	新任職員研修	介護保険制度の基本的理解及び対人援助者としての基礎知識	青森市
6月	認知症介護基礎研修	ケア現場で役立つ認知症に関する最低限の知識・技術とそれを実践する際の考え方を身に付ける	青森市
6月～	介護職員による喀痰吸引等研修	介護職員による喀痰吸引等の養成研修	青森市
6月～	認知症介護実践研修	認知症介護技術の向上を図ることを目的とする	藤崎町
7月	チームビルディングファシリテーター養成研修	介護現場における人材育成を考える	
8月	メンター研修	介護現場における人材育成を考える	青森市
9月	認知症ケアのための多職種連携研修	①チームで考える・支える認知症ケアとは ②尊厳ある生活を支える認知症ケアとは	青森市
10月	体験型チームワーク向上研修	チームワークの強化・体験プログラム	藤崎町
11月	介護技術レベルアップ研修	「身体に負担のかからない介護技術」「摂食・嚥下」など4つのテーマから選べる選択型研修	青森市
	リスクマネジメント研修	介護サービスにおけるリスクマネジメント	青森市
	チームワーク向上プログラム出前講座	チームワークの強化・体験プログラム	五所川原市
	認知症タイプ別ケア研修	認知症のタイプ別ケア方法、精神的に安定する対応方法	青森市
	介護記録研修会	記録の書き方など	青森市
	ユニットリーダーフォローアップ研修	リーダーの役割と運営上の課題整理等	青森市

※ その他、専門職（ケアマネ・相談員・看護師・給食）に関しても、随時研修参加できるように配慮していく

9. 内部研修

月	研修名	内容	講師
4月	新任者研修	法人が実施する事業内容や取組み姿勢及び各種規程の理解。また基本的な介護技術の習得。更には外部研修に参加し、社会人としての自覚を促す	各担当者 外部研修事業者
	スキルアップ研修	「社会福祉法人の理念」	理事長
	スキルアップ研修	「ノーリフティングケア」講習	委員会
5月	スキルアップ研修	「感染予防について」	看護師
6月	スキルアップ研修	「介護記録の書き方」	主任
7月	スキルアップ研修	「身体拘束・虐待について」「救急法」	委員会
8月	スキルアップ研修	「ノーリフティングケア」講習	
9月	スキルアップ研修	「接 遇」	外部講師

10月	スキルアップ研修	「認知症について」	外部講師
11月	スキルアップ研修	「感染予防について」	看護師、委員会
12月	スキルアップ研修	「口腔ケアについて」	外部講師
	スキルアップ研修	「ノーリフティングケア」講習	委員会
1月	スキルアップ研修	「第2回 身体拘束・虐待について」	委員会・外部講師
2月	スキルアップ研修	「介護技術について」	外部講師
3月	スキルアップ研修	「個人情報保護とプライバシーについて」「救急法」	館長・担当者

※ その他、法人内の事業所との交換研修や外部講師による講習会、他事業所等の見学等も随時企画する

令和5年度 事業計画 障害者福祉ホーム きりん館

1. 事業内容

福祉ホーム事業（定員 11 名）

障がいのため家庭において日常生活を営むことに支障のある障がい者に対し、低額な料金で日常生活に適するような住まいを提供する

2. 事業方針

設備を利用することにより、各種障がい者支援サービスを活用し、自立した生活を営んでいただく

3. 事業計画

- (1) 住みやすい環境の整備を進めて維持していく
- (2) うちがた工房、内潟療護園ホームヘルプセンターとの連携で豊かな生活を提供していく

令和 5 年度 事業計画

内潟療護園相談センター

1. 事業内容

居宅介護支援

2. 事業方針

社会福祉法人内潟療護園の理念である「一人ひとりが人として豊かに」を念頭におき、常に利用される皆様一人ひとりと真摯に向き合い、利用者や家族が相談しやすく、相手の立場や気持ちに寄り添った支援をしていく。また、地域で安心して暮らすことができるよう、各サービス事業所や行政、医療機関と連携し、情報提供や相談業務などの支援を行う。

3. 事業計画（目標）

- (1) 自立支援の理念において、ケアマネジメントを実施する
- (2) 利用者の確保に努める（前年度比＋3％増）
- (3) 中泊町及び他市町村からの認定調査を受託する
- (4) 保健・医療・福祉分野などの専門職との連携
- (5) 毎週ミーティングを実施し、利用者・他事業所の情報を職員間で共有
- (6) 他法人との共同研修及び事例検討会を定期的に開催しケアマネジメントの質の向上を図る
- (7) 行政・医療機関とのネットワークの構築を図る
- (8) 新型コロナウイルス及びその他感染症の発生防止のため、マニュアルを定期的に見直ししながらサービス提供を実施。定期的に研修会も開催する。
- (9) 年 1 回利用者にアンケートを実施して事業所の質の向上へつなげる
- (10) ハラスメント発生時は、法人のハラスメント防止等に関する要綱に沿って対応し、所属相談員及び専門相談員へ報告・相談する
- (11) 緊急時や災害時のマニュアルを定期的に見直し、緊急時は各関係機関と連携し、利用者が安全に避難できるようにする。合わせて、サービス提供できる体制が整い次第、支援できる業務体制を整える
- (12) iPad やデータ連携システムを活用し、業務の効率化を図る
- (13) 地域共生サロン『みんなのやど』の運営に協力し、地域とのつながりを強化する

4. 施設行事

月	行事名	内容等
9 月	ケッパレ薄市秋祭り	ケッパレ薄市秋祭りに参加し、地域住民へ広報する

5. 職員会議

	会議名	内容等	開催日	参加者
1	職員会議	理事長及び各部署からの連絡。関係事項の周知・各種事案の検討等	月 1 回	全職員

6. 外部研修（昨年度研修を参考にしています。）

月	研修名	内容	開催地
4月	主任介護支援専門員更新研修	主任介護支援専門員更新研修	オンライン
1月	主任介護支援専門員スキルアップ研修	主任介護支援専門員のスキルアップのための内容	オンライン
2月	認定調査現任研修	介護認定調査現任研修	オンライン
不定期	介護支援専門員西北五支部研修会 青森県介護支援専門員協会研修会	介護支援専門員資質向上のための内容	オンライン
	青森県介護支援専門員協会 青森県介護支援専門員協会研修会	法定外研修 重点課題解決研修	オンライン

7. 内部研修

月	研修名	内容	講師
4月	法人の理念	社会福祉法人内潟療護園の理念	理事長
6月	倫理	介護支援専門員の倫理	担当者
7月	自己覚知	個性について学ぶ 応用編	オンライン
8月	感染症	感染症や感染症予防について学ぶ	オンライン
9月	虐待防止	高齢者・障害者虐待防止	外部講師
10月	介護技術・コミュニケーション	介護技術の振り返りや新しい技術を学ぶ	外部講師
11月	認知症	認知症タイプ、認知症の方へのケア	担当者
12月	課題分類総括表	課題分類総括表の作成方法の見直し	外部講師
1月	自己評価	居宅介護支援事業所の自己評価	
2月	ケアプラン点検	ケアプラン点検実施後のプランの見直し	担当者
3月	令和5年度の評価	令和5年度の自己点検・評価	

令和 5 年度 事業計画

内潟療護園デイサービスセンター

1. 事業内容

- (1) 通所介護（総定員 35 名）
- (2) 通所型独自サービス（総定員 35 名）
- (3) 基準該当生活介護
- (4) 基準該当自立訓練

2. 事業方針

- (1) 要介護状態になっても、住み慣れた地域で安心・安全で自立した生活を継続できるよう、入浴や食事、機能訓練、その他のサービスを提供する
- (2) 利用者の心身機能の維持と重度化の防止、日常生活の活性化、自立生活の助長、社会的孤立の解消、並びに家族の介護負担の軽減を図ることを目的とした支援を行う

3. 事業計画（目標）

- (1) 法人の理念に基づき、職員が楽しく仕事ができるように労務管理を行う
- (2) 医療・介護需要等の地域状況を把握する
- (3) 稼働率改善に向けた広報活動として、ホームページ・ブログの活用、チラシ制作に取り組む
- (4) 利用者獲得にあたり、拠点のある内潟地区は毎戸に営業活動する
- (5) 居宅介護支援事業所や地域連携室など関係機関（保健・医療・福祉サービス）との連携を図り、中泊町内（中里地区・小泊地区）だけでなく、近隣の市町村からも利用者を獲得する
- (6) 認知症についての理解のもと、本人主体の介護を行い、全職員が利用者の特徴を把握し、環境面・人員面での事故を未然に防ぐようにする
- (7) 地域共生サロン『みんなのやど』の運営に協力し、地域とのつながりを強化する
- (8) 感染防止対策を継続する

4. 各係の取組み

	係名	取組内容
1	業務検討	業務の見直しや改善を検討する
2	防災・避難訓練	避難訓練の実施（きりん館と合同）や防災対策を検討する
3	リスクマネジメント検討	業務におけるリスクマネジメントについて検討する
4	余暇活動	レクリエーションなどの余暇活動を実施する
5	行事・外出・イベント	行事や外出などを企画し実施する

5. 施設行事

月	行事名	内容等
4 月	花見、買物外出	芦野公園への花見外出や、近隣スーパーなどへの買物外出を通じて心身の活性化と機能訓練を図る
5 月	芝桜観桜、買物外出	本部への芝桜観桜や、近隣スーパーなどへの買物外出を通じて心身の活性化と機能訓練を図る
6 月	ラベンダー観覧、買物外出	本部へのラベンダー観覧や、近隣スーパーなどへの買物外出を通じて心身の活性化と機能訓練を図る
7 月	焼き芋会	専用の焼き芋機で焼いた本格的な石焼き芋の味を楽しむ
8 月	買物外出（お盆前）	近隣スーパーなどへの買物外出を通じて、心身の活性化と機能訓練を図る
9 月	買物外出（秋彼岸）	近隣スーパーなどへの買物外出を通じて、心身の活性化と機能訓練を図る
10 月	焼き芋会	専用の焼き芋機で焼いた本格的な石焼き芋の味を楽しむ
12 月	買物外出（年末）	近隣スーパーなどへの買物外出を通じて、心身の活性化と機能訓練を図る
1 月	新年会	余興やビンゴ大会を実施し、利用者と一緒に新年を祝う
3 月	買物外出（春彼岸）	近隣スーパーなどへの買物外出を通じて、心身の活性化と機能訓練を図る

6. 職員会議

	会議名	内容等	開催日	参加者
1	地域福祉センター職員会議	センター長や各部署からの連絡や伝達、関係事項の周知及び事業の検討等	月1回	全職員
2	地域福祉センター安全衛生委員会	感染対策の基礎的内容等の適切な知識を普及・啓発するとともに、衛生管理の徹底や施設内外の安全面を検討し事故防止に努める	月1回	産業医 施設長、看護師、担当職員
3	給食会議	給食部門と給食についての検討	2か月1回	担当職員
4	デイサービスミーティング	利用者や行事など連絡事項の確認	毎日	全職員

7. 外部研修（前年度研修を参考にしています。）

月	研修名	内容	開催地
7月	認知症介護実践者研修	認知症介護に関する実践的な研修を実施することにより介護技術の向上を図ることを目的とする	オンライン
	デイサービススキルアップ研修会	日々行っているレク活動の充実化を図ることを目的とする	青森市
8月	キャリアパス対応生涯研修 管理職員コース	トップマネジメントとしての役割を遂行するための基本を習得する	オンライン
9月	社会福祉施設中堅・指導的職員研修	社会福祉施設の指導職員として求められる能力・役割を理解し、実践活用できる技能を身に着ける	青森市
10月	介護サービス情報の公表制度	「10の研修テーマ」に関する知識・技術を介護サービスに従事する役職員が習得することによって、介護サービス全体の質の向上に資することを目的とする	オンライン
11月	病院勤務以外の看護師等認知症対応力向上研修	認知症の方、家族を支えるために必要な基礎知識や、医療と介護の連携の重要性、認知症ケアの原則等の知識について習得する	オフライン
12月	キャリアパス対応生涯研修 チームリーダーコース	チームリーダーとしての役割とキャリアを確認しながら、求められる役割を遂行するための基本を習得する	青森市

8. 内部研修

月	研修名	内容	講師
4月	新任者研修	法人が実施する事業内容や取組み姿勢、各種規程の理解など	各担当者
5月 7月 9月	マニュアル改善	マニュアル見直しチームを設置して、業務等の変化に対応した最新のマニュアルとして活用できるよう整備を行う	各担当者
6月 10月	先進事業所見学	先進事業の見学を行い、モチベーションアップを図るとともに、報告を兼ねた勉強会により自施設でどのように取り入れられるかを研究する	各担当者
8月 11月	認知症に関する勉強会	研修会参加者を講師として、認知症のある方への支援について検討する	各担当者

令和5年度 事業計画

内潟療護園ホームヘルプセンター

1. 事業内容

- (1) 居宅介護
- (2) 重度訪問介護
- (3) 訪問介護
- (4) 訪問型独自サービス

2. 事業方針

法人理念である「一人ひとりが人として豊かに」をもとに、介護が必要な状態となった場合でも、可能な限り居宅において自立した生活ができるよう本人・家族に寄り添いながら支援する。

3. 事業計画（目標）

- (1) 利用者・家族のニーズや要望を聞き取り、個別の訪問介護計画を作成。一人ひとりが自立した生活を送れるよう支援する
- (2) 居宅介護支援事業所及び相談支援事業所、各関係機関との連携を図り、利用者の確保に努める
- (3) 定期的に研修会を開催し、サービスの質の向上を図る
- (4) 町内の訪問介護事業所と連携を図り、オンライン会議アプリ等を活用した定期的な話し合いができるように努める
- (5) 中泊町ケア会議へ出席し、地域課題の発見や事例提供・報告ができるよう努める
- (6) 新型コロナウイルス及びその他の感染症の発生防止のため、マニュアルを定期的に見直ししながらサービス提供を実施。定期的に研修会も開催する。
- (7) 緊急時や災害時のマニュアルを定期的に見直し、緊急時には各関係機関と連携し、利用者が安全に避難できるようにする。合わせて、サービスが提供できる体制が整い次第、支援できるよう業務体制を整える
- (8) ICT 機器やソフトウェアの利用、データ連携システムを活用し、業務の効率化を図る。
- (9) ハラスメント発生時は、法人のハラスメント防止等に関する要綱に沿って所属相談員及び専門相談員へ報告・相談する

4. 施設行事

月	行事名	内容等
9月	ケッパレ薄市秋祭り	ケッパレ薄市秋祭りに参加し、地域住民へ広報する

5. 職員会議

	会議名	内容等	開催日	参加者
1	職員会議	理事長及び各部署からの連絡。関係事項の周知・各種事業の検討等	月1回	全職員
2	給食会議	利用者・職員から給食への要望	隔月	各担当
3	ミーティング	うちがた工房・ヘルパーとの業務内容や連絡事項等の共有	月1回	全職員
		業務内容や連絡事項等の共有・各種事業の検討		

6. 外部研修（前年度研修を参考にしています。）

月	研修名	内容	開催地
10月	看取り介護について	看取り介護の在り方	青森市
11月	リーダー育成研修	リーダーの本質の理解、人材育成力の向上	青森市
	リスクマネジメント	リスクマネジメントの視点と理解	青森市
2月	介護職のためのストレスコントロール	ストレスが及ぼす影響、ストレスをため込まないセルフケア	オンライン

7. 内部研修

月	研修名	内容	講師
4月	ヘルパー勉強会	法人の理念について	理事長
5月		介護福祉士の理念	外部講師
6月		接 遇	オンライン
7月		熱中症・脱水症	担当者
8月		認知症対応	担当者
9月		高齢者・障害者虐待防止	外部講師
10月		緊急時の対応	担当者
11月		感染症予防	看護師
12月		個人情報保護、プライバシー保護	担当者
1月		サービス事業所点検・自己評価	担当者
2月		リスクマネジメント	担当者
3月		評価・次年度の目標	担当者

令和 5 年度 事業計画

うちがた工房

1. 事業内容

(1) 生活介護（定員 14 名）

常に介護を必要とする人に、入浴・排泄・食事の介護、生活等に関する相談、助言、その他必要な日常生活上の支援、創作活動、生産活動の場を提供する。

(2) 自立訓練（機能訓練）（定員 6 名）

利用者が自立した日常生活、社会生活を営むことができるよう身体機能の維持、向上のため必要な訓練を行う。

2. 事業方針

- (1) 法人理念である「一人ひとりが人として豊かに」をもとに、利用者主体のニーズの追求と創作活動または生産活動を通じて地域との交流を図りながら社会参加と自立を目指す。
- (2) 一人ひとりの可能性を見出し、自己決定を尊重し、ニーズに沿った個別支援と質の高いサービス提供を図っていく。
- (3) 生産活動を通じて、利用者、地域住民、職員が風通しの良い関係で笑顔で過ごせる地域社会づくりを目指す。

3. 事業計画（目標）

- (1) 利用者・家族のニーズや要望を個別支援計画に反映させ、一人ひとりに合わせた質の高いサービスが提供できるよう、支援内容の向上を図ると共に職員のスキルアップを図る。
- (2) 作業を通じた社会参加とレクリエーション活動など、利用者の「やりたいこと」や家族のニーズを考慮し、様々な経験をする中で日中活動を充実させていく。
- (3) 生産活動では、なたね・ひまわり油の生産販売を行っていく。また、新たな生産活動を模索し開拓する。作業は、それぞれ自分のペースで進めていくことを基本とし、役割を持てるよう支援する。
- (4) 地域住民と行うひまわり栽培やイベント参加など、地域の中での活動を増やしていくことで、事業所の認知度を高めていく。
- (5) 相談支援事業所や関係機関（保健・医療・福祉サービス）との連携を図り、利用者の確保に努める。
- (6) コロナ禍でも感染予防対策を講じ、施設内外での活動の充実を図る。

4. 施設行事

月	行事名	内容等
4 月	買物外出	衣類や生活用品を自分の目で確かめて購入することで楽しむことができる機会を提供する
5 月	花見	芦野公園にて桜を鑑賞。利用者との交流を図りながら春の訪れを楽しむ
6 月	買物外出	衣類や生活用品を自分の目で確かめて購入することで楽しむことができる機会を提供する
7 月	BBQ	中庭にて BBQ を開き、普段の食事と違った雰囲気での食事を楽しむ
8 月	ドライブ外出	利用者から希望を取り、ドライブや買物・食事をすることで楽しむことができる機会を提供する
	流しそうめん	前庭にて流しそうめんを行い、普段の食事と違った雰囲気での食事を楽しむ
9 月	ケツパレ薄市秋祭り	秋祭りに参加して地域住民の方との交流を図る
	嶽きみ外出	嶽きみを購入し、季節の味を楽しむ
10 月	買物外出	衣類や生活用品を自分の目で確かめて購入することで楽しむことができる機会を提供する
11 月	なかどまり町民祭	作品を見学したり、催物を楽しむ。なたね油で揚げたドーナツを販売し、地域住民の方との交流を図る
	収穫祭	ひまわり収穫、乾燥作業、種取り作業を利用者で行った日頃の労をねぎらい中庭にて BBQ を行い、利用者と交流を図るとともに、普段の食事と違った雰囲気を楽しむ
12 月	買物外出	衣類や生活用品を自分の目で確かめて購入することで楽しむことができる機会を提供する
1 月	新年会	正月料理を食べたり、ビンゴ大会をしながら新年を祝う
3 月	買物外出	衣類や生活用品を自分の目で確かめて購入することで楽しむことができる機会を提供する

※外出や行事は土曜日の開催であったが、今年度は入浴日を調整して平日にも実施していく

5. 各委員会の取組み

	会議名	内容等	開催日	参加者
1	地域福祉センター 安全衛生委員会	感染対策の基礎的内容等の適切な知識を普及・啓発するとともに衛生管理の徹底や衛生的なケアの励行を行う。また、職員の作業事故の防止にも取り組む	月1回	産業医、衛生管理者、所長 看護師、主任 各担当者

6. 職員会議

	会議名	内容等	開催日	参加者
1	地域福祉センター 職員会議	各部署からの連絡、関係事項の周知、各種事案の検討、研修内容の伝達等の勉強会の実施	月1回	全職員
2	地域福祉センター 給食会議	給食部門との情報共有、献立に関する利用者の嗜好や情報収集	隔月1回	栄養士、所長 主任、担当者
3	ミーティング	利用者についての情報共有、連絡事項の確認	毎日	全職員
4	ヘルパー合同ミーティング	うちがた工房、ヘルパーとの業務内容や連絡事項等の共有	月1回	全職員

7. 外部研修（前年度研修を参考にしています）

	研修名	内容	開催地
7月	社会福祉施設職場研修担当者研修	人材育成や定着に向け、OJTをはじめとする職場研修の実施方法について学ぶ	青森市
8月	相談支援従事者初任者研修	地域の障害者等の意向に基づく地域生活を実現するために必要なサービスの総合的かつ、適切な利用支援等の援助技術を習得する	青森市
9月	介護施設・事業所におけるハラスメント対策セミナー	さまざまなハラスメント問題について、経営上のリスクとなり得る問題を学ぶ	青森市
	サービス管理責任者等基礎研修	適切なサービス提供のための個別支援計画作成・サービス提供プロセス管理などを学び、任用資格を習得する	青森市
10月	能力開発啓発セミナー	離職の少ない魅力的な職場環境を実現するため、介護現場における体系的な人材育成を学ぶ	青森市
11月	チーム力向上のためのコミュニケーション	チームワーク強化のために必要なコミュニケーションを学ぶ	青森市
12月	障害者虐待防止権利擁護研修	障害者の人権・権利の擁護推進のために、施設職員として役割や対応について理解を深める	青森市
都度	地域ケア推進会議	介護・保健・医療・福祉などの関係者が地域の仕組みづくり・資源の開発に検討や提案を行う	中泊町

8. 内部研修

	研修名	内容	講師
	職場内研修	年間計画・担当業務について	担当職員
		介護記録の書き方	
		リスクマネジメントについて	
		食中毒について	
		熱中症・脱水予防について	
		感染予防について	
		健康管理・ストレス管理	
		救急法	

令和 5 年度 事業計画
中泊町地域包括支援センター

1. 事業内容

- (1) 包括的支援事業
- (2) 介護予防・日常生活支援総合事業

2. 事業方針

- (1) 社会福祉法人内湯療護園の理念「一人ひとりが人として豊かに」という理念のもと、中泊町第 8 期介護保険事業計画「健康で共に支え合う町づくり」の基本理念に基づき、年間事業に従い実施する。
- (2) 町民が住み慣れた地域で安心して生活ができるよう、職員全員が連携して業務を実施する。
- (3) 地域住民や関係機関にとって、相談しやすいセンターの運営に努める。

3. 事業計画（目標）

(1) 包括的支援事業

① 総合相談支援業務

- ・高齢者が安心して相談できる窓口として地域住民への周知を図り、ワンストップサービスの拠点として、電話・来所・個別訪問、またコロナ禍に伴いオンラインを活用した相談窓口を設け相談しやすいセンターを目指す。
- ・対象者や家族からの相談を待つだけでなく、地域住民や地域の関係者・協力者と連携しながらスムーズな実態把握を行う。状況に応じアウトリーチを行う。
- ・高齢者世帯（独居・高齢者夫婦）の実態把握調査を実施し、実態把握に努めて孤独死や必要なサービスに繋がらないケースの早期発見・対応に努める。

② 権利擁護業務

- ・高齢者が、地域において安心して尊厳のある生活ができるよう、権利侵害防止のための支援、高齢者虐待への対応、成年後見制度の利用支援、消費者被害防止の支援について、専門的・継続的な視点からの支援を行う。
- ・幅広く周知されるよう、権利擁護についての研修会実施や、成年後見制度に関する相談会を実施するなど普及啓発に取り組み、必要時は迅速に各機関と連携して解決を目指す。

③ 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

- ・関係機関との連携体制の構築、地域の介護支援専門員のネットワーク構築を支援する。
- ・支援困難な事例に対する相談がしやすいセンターを目指す。

④ 地域包括ケアシステム推進

住み慣れた地域で高齢者が自立し暮らし続けることができるよう、医療、介護、介護予防、住まい、生活支援サービスが切れ目なく提供される地域包括ケアシステムの実現を目指し取組を推進する。

◆ 在宅医療・介護連携推進事業

医療と介護を必要とする状態の高齢者が、住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、在宅医療と介護サービスを一体的に提供される体制の構築を目指す。

◆ 認知症総合支援事業「認知症にやさしいまちづくりをめざす」

認知症初期集中支援事業

- ・認知症初期集中チームの設置と役割について周知を図る。

- ・認知症初期集中チーム活動を通して、医療・介護間の連携を深め、本人、家族の支援体制づくりを進めていく。

認知症地域支援・ケア向上事業

- ・「認知症にやさしいまちづくり」を目指し、地域でのサポーター養成講座を実施し、サポーター養成を継続する。
- ・支援体制の構築と認知症ケアの向上に向け、介護者の集いや認知症カフェの運営に取り組んでいく。
- ・認知症月間（9月）に、「認知症フォーラム」を開催する。

◆ 地域ケア会議の充実「地域ケア個別会議の実施、地域ケア推進会議との連携、他職種協働による地域包括支援ネットワークの構築」

- ・各会議目的に沿った運営が可能となるよう運営スキルの向上を図る。
- ・個別課題の解決・自立支援を図る会議、困難ケースに対するケア会議の開催。
- ・住み慣れた地域、住まいでの生活を送れるよう他職種が連携して、解決に繋げる方向性を把握する。地域課題の把握に努め、政策提言を行う。
- ・介護サービスだけでなく、保健や介護・医療などの様々な社会資源が連携できるように環境整備を促進する。

（2）指定介護予防支援事業 新しい介護予防・日常生活支援総合事業

① 指定介護予防支援事業

介護保険の予防給付対象となる要支援者が、介護予防サービスなどを適切な利用ができるように目標及び本人の意向が明確なケアプラン作成を目指す。

② 第1号介護予防支援事業

介護予防を目的に、事業対象者、要支援者へのケアマネジメントの実施。適切な事業が提供されるよう必要な援助を行う。

③ 一般介護予防事業

- ・住民が主体的に健康づくり（介護予防）に取り組むことにより、できる限り介護を必要とせず、に過ごせるよう支援、高齢になっても主体的活動・生きがい・役割をもって生活できるよう介護予防を推進する。
- ・「いきいき百歳体操」実施にあたっては、高齢者を年齢や心身の状況等によって分け隔てることなく、住民の参加のしやすさ、主体性を考慮し活動していけるようサポートする。

4. 各係の取組み

	係名	取組内容
1	包括普及啓発 (たより・フェイスブック等)	住民や関係機関への地域包括支援センター・地域支援事業の普及啓発、実施業務のフィードバックなどを行う
2	出前講座(住民・介護サービス事業所)	住民や関係機関を対象に、地域包括センターの業務や職員の専門性を活用した講座を開催する
3	なかどまり町民祭	地域包括支援センター・地域支援事業の普及啓発や福祉用具の展示・紹介などを行う
4	事業継続計画	事業継続計画作成・その他マニュアル作成

5. 行事

月	会議・行事名	内容等
4月	認知症サポーター養成講座	「認知症にやさしいまちづくり」の一環で、住み慣れた地域で安心して暮らし続けるための応援者を促進する
5月	中泊町地域包括支援センター運営協議会	地域包括支援センターにおける各業務の評価やセンターの適切・公正中立な運営の確保を目指す
	地域ケア推進会議	個別ケースの課題解決するために多職種が集まり検討をする
6月	地域ケア個別会議	介護・保健・医療・福祉などの関係者が地域の仕組みづくり・資源開発の検討や提案を行う
7月	地域ケア個別会議	個別ケースの課題解決するために多職種が集まり検討をする
8月	地域ケア運営会議	介護・保健・医療・福祉などの関係者が地域の仕組みづくり・資源開発の検討や提案を行う
9月	地域ケア推進会議	関係機関の代表者レベルが集まり、地域課題を明確化し解決に向けた検討や決定を行う。政策提言に向けた提案を行う
	認知症フォーラム(研修会)	「認知症にやさしいまちづくり」をテーマに研修・ディスカッションを行う
10月	認知症サポーター養成講座	「認知症にやさしいまちづくり」の一環で、住み慣れた地域で安心して暮らし続けるための応援者を促進する
	なかどまり町民文化祭(小泊会場)	地域包括支援センター・地域支援事業の普及啓発や福祉用具の展示・紹介などを行う
11月	なかどまり町民文化祭(中里会場)	地域包括支援センター・地域支援事業の普及啓発や福祉用具の展示・紹介などを行う
	地域ケア推進会議	個別ケースの課題解決するために多職種が集まり検討をする
12月	地域ケア個別会議	介護・保健・医療・福祉などの関係者が地域の仕組みづくり・資源開発の検討や提案を行う
1月	地域ケア個別会議	個別ケースの課題解決するために多職種が集まり検討をする
2月	地域ケア推進会議	介護・保健・医療・福祉などの関係者が地域の仕組みづくり・資源開発の検討や提案を行う
3月	地域ケア運営会議	関係機関の代表者レベルが集まり、地域課題を明確化し解決に向けた検討や決定を行う。政策提言に向けた提案を行う
	認知症初期集中支援チーム検討会	認知症の早期診断、早期対応が自律的に機能する地域の体制構築する

6. 職員会議

	会議名	内容等	開催日	参加者
1	包括内ミーティング	当月の行事や事業など関係事項の周知や役割分担。研修内容の伝達や各種事案の検討など	月1回	全職員
2	地域福祉センター職員会議	理事長及び各部署などからの連絡や関係事項の周知、各種事案の検討など	月1回	全職員

7. 外部研修(前年度研修を参考にしています。)

月	研修名	内容	開催地
5月	青森県認知症施策市町村等セミナー	青森県内認知症施策関係者が一堂に会し、認知症施策について共有し、施策の推進を図ることを目的として市町村における認知症施策に係る活動報告、職能団体と市町村の連携に関する情報共有・情報交換を行う	青森市
	認定調査従事者研修	市町村から認定調査の委託を受け、介護支援専門員が認定調査を実施するための研修	青森市
6月	青森県地域包括・在宅介護支援センター協会会員研修	地域包括支援センターと在宅介護支援センターの今後のあり方について今一度理解を深め、青森県の地域の実情に合った地域包括ケアシステム構築の一助とする	青森市
7月	青森県介護支援専門員専門研修Ⅰ	介護支援専門員として就業をしている方に対して、一定経験をもとに必要な応じた専門知識、技能の習得を図り、介護支援専門員としての資質や専門性を高める	青森市
9月	青森県介護支援専門員専門研修Ⅱ	同上	青森市
	適切なケアマネジメント手法実践研修	要介護高齢者の生活の継続を支えるうえで重要な支援内容を体系化した手法について習得する	
	認知症地域支援体制推進全国合同セミナー	認知症を支える地域資源連携・支援体制づくりを着実に進めていくために、自治体担当者の役割機能や事業展開のあり方等に関するポイントを学ぶ	

10月	主任介護支援専門員研修	主任介護支援専門員としての資格取得のための研修	青森市
	キャラバンメイト養成研修	「認知症サポーター」をつくる「認知症サポーター養成講座」の講師役	青森市・弘前市
11月	権利擁護・成年後見制度セミナー	市町村並びに専門職が地域における成年後見制度利用促進に向けた体制整備に向け共に考える機会とする	青森市
	地域包括支援センター職員研修	地域包括支援センターに勤務する職員が、地域包括支援センターの意義・役割、その他の業務、他の専門員との連携等について理解し、業務を行う上で必要な知識の習得及び技術の向上を図り、地域包括支援センターの適切な運営を確保する	青森市
12月	キャラバンメイトフォローアップ研修	認知症サポーター養成講座修了者が、実際の活動につながるための講座	
	主任介護専門員スキルアップ研修	ケアプラン作成に求められる思考過程と標準様式の視点について再確認。地域における指導者としての役割のスキル向上を図る	
1月	認定調査従事者現任者研修	市町村から認定調査の委託を受け、現に認定調査に従事している介護支援専門員の研修	青森市
	チームオレンジ・コーディネーター研修	令和7年末までに「全市町村で、本人・家族のニーズと認知症サポーターを中心とした支援をつなぐ仕組み（オレンジチームなど）を整備」の一環として行う研修	
2月	青森県介護予防支援従事者研修	介護予防支援事業所において、介護予防支援の業務に従事する者がアセスメントを実施し、介護予防サービス計画を作成できるよう必要な知識の習得及び技術の向上を図り、適切な介護予防支援の提供を確保する	青森市
その他	地域包括支援センター業務に必要な知識の習得、相談援助の向上を目的とする研修に参加予定		

8. 内部研修（地域福祉センター勉強会担当職員が企画した研修に参加する）

月	研修名	内容	講師
地域福祉センター勉強会担当者が企画した研修に参加する			